

学校名	新座市立大和田小学校
実施日	令和4年1月18日

<記入の仕方> ○「自己評価」及び「学校関係者評価」の欄には、A～Dを記入してください。

○「自己評価についての説明」の欄には、その評価に至った理由及び自己評価の結果を学校がどのように受け止めるかを明確にしてください。

評価項目「独自」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
1	私は、自己有用感の高い学校づくりに取り組んでいる。	B	・教職員自ら、児童の自己有用感を高めるための目標値を定め、児童の取組に対して評価し、小さな成長を認めて褒め、育てることを心がけている。また、個人面談や懇談会、連絡帳等を使い、児童の良さを共有し、学校・家庭の両輪で自己有用感の向上を図っている。 ・運動会では、学年で練習し協力してダンスを踊ったり、クラスで話し合っスローガンやマスコットを作成したりするなど、クラスの仲間と力を合わせながらいろいろと成し遂げたことで、一人一人の自己有用感を高めている。	A	コロナ禍の難しい状況の下で、学年を分けて運動会を実施するなど状況に応じた対応を評価したい。ライブ配信など一人一人の活躍を大切にした行事の実施や、「今日のキラキラさん」など、自己有用感を高める取り組みを工夫するとともに、連絡帳を通して、子どもの活躍やよさを保護者と共有している点も評価できる。自己評価が厳しいのではないと思うが、一方で、一人一人の見取りに差異が生じがちであることにも配慮したい。普段の何気ない行動、様子を見ていることも伝えてほしい。
2	私は、ゴール(身に付けさせたい力)を明確にし、主体的・協働的に課題解決を図る授業づくりに取り組んでいる。	B	・全教科で授業の「めあて」「評価」「ゴール」の一体化を意識し、児童自身で「めあて」をたてさせたり、自分の言葉で授業の「ふりかえり」を書かせるなど、主体的に授業に臨めるよう、授業を工夫している。 ・タブレットを活用し、個人で作成したスライドについての意見を交流したり、一緒にイメージマップを作成したりして課題解決に取り組んでいる。今後も新たな指導方法を取り入れつつ、対面方式とのハイブリットな手法を探っていく。	A	目標を明確にして、達成の過程を大切に学習が工夫されていることがうかがえる。目標の観点から学習状況を振り返ることは主体的に学ぶ力につながる取り組みとして期待したい。タブレットの活用等、取り組みの状況を共有して、新しい状況に対応できる学習を工夫するなど、個々の達成状況を捉えた支援をお願いしたい。
3	私は、児童の『自分から』を大事にした主体的・協働的な教育活動に取り組んでいる。	B	・昨年度に引き続き『自分から』の具体的なイメージを児童と共有し、キャッチフレーズ『自分から にこにこ きびきび すらすら はきはき』とともに繰り返し指導している。 ・昨年度は実施できなかった「縦割り顔合わせ会」、「縦割り掃除」、「6送会のプレゼント作り」や「学年ごとの出し物」など主体的・協働的に児童が活躍できる場を提供した。次年度もコロナ対策をしながら、できる限り児童が活動できる場を準備していく。	A	コロナ禍においても一人一人が活躍できる場が工夫されている。清掃等、上級生が進んで活動している姿を目にして「自分から」の姿勢が育っているのを感じる。縦割りでの活動を通してリーダーが育っていることがうかがえる。縦割りのよさを活かして協働的な力を育ててほしい。学校応援団の活動などの際、児童や職員の方が声をかけたり、気がついたことを手伝ってくれたりする。学校生活における日頃の取り組みが感じられる。

評価項目「組織運営」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
4	学校は校務分掌や主任制を適切に機能させるなど、組織的な運営・責任体制を整備している。	B	・職員全体の若返りが顕著に見られ、年齢構成のバランスが取りづらいい中、大和田小の伝統として継続すべき業務と、働き方の観点から見直すべき業務とを仕分けし、適切な業務を適切に機能させる手だてを講じていく。 ・働き方改革の観点から、適切なバランスになるように仕事の分担を見直すとともに、各種アンケートをタブレットを使って回収・集計するなど、仕事の効率化を図る。	A	異動による教職員の入れ替わりで年齢構成のバランスが難しいとのことだが、組織的な経験を共有することが難しい一方で、業務の見直しなど、働き方の改善が進んでいることがうかがえる。情報機器を活用した業務の効率化とともに、日常の協働を通して「ワンチーム」での運営体制を充実させてほしい。アンケート等の集計をタブレットで行うことは効率的だと思うが、回答者である保護者や児童の「顔」が見えなくなる懸念もある。今後の工夫に期待したい。
5	学校は経営方針を具現化するために、学校評価の実施等を通じて、PDCAサイクルに基づく学校経営を行っている。	B	・企画委員会や職員集会などで学校の方向性をみんなで確認しながら改善を図っていく。 ・本年度の反省を生かして、組織改善委員会で職員から声を上げて定期的に組織の見直しができるように、委員会を活性化していく。	A	組織改善委員会を設けて組織運営の見直しを行い、成果を上げていることを評価したい。見直しについて職員からの声を大切にしていると感じた。登校時間の見直しなど、児童にも良い影響が出ているようだ。組織の改善を通して活性化を図ることに期待したい。
6	学校は事故や不審者の侵入等の緊急事態発生時に適切に対応できるよう。危機管理マニュアル等を作成し、迅速に対応できる体制を整えている。	B	・コロナ禍ではあるが、感染防止対策を取りながら、危機管理マニュアルに従って、不審者対応や避難訓練(地震・火災)を実施できた。 ・いつなんどき緊急事態が起きても、「自分の命は自分で守る」意識を平常時から育てていく。 ・緊急事態発生時に、学校と地域組織の町内会との連携が課題である。	B	災害時を想定した対応の具体化が課題だと思われる。夜間の鍵の保管や防災倉庫の機能等、従来からの取り組みを確認する必要もあるのではないだろうか。地域との情報交換や市役所との連携を見直すなど、改善が必要だと思われる。また、想定外の事故にも対応できるよう、備えられたい。

評価項目「学力向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
7	学校は、児童生徒が学習内容の理解を深めることができるよう、学習ルールを定め、それに基づいた授業を展開している。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「大和田のきまり」を繰り返し指導し、児童に意識させている。ただ、「きまり」に縛られすぎると、思考する機会を奪う恐れがあるので、時代に合わないきまりは今後見直していく。 ・今年「チャイムで始まりチャイムで終わる」の意識し、決められた時間の中で児童の学習内容の定着に努めていく。 	A	低学年ではチャイムで気持ちを切り替えることが難しい面が見られる。時代に合わないきまりは今後見直していくとのことで、情報機器の活用など学校生活の新しい様式に合わせたきまりの検討など、見直しを通じた学校生活の充実を期待したい。
8	学校は、各教科の指導において言語活動を重視した授業を展開し、児童生徒の思考力・判断力・表現力等の育成に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的な話し合い活動が難しく、非常に苦慮したが、付箋を利用したり、タブレットのアプリケーションを活用し、児童同士意見の交流をした。今後はこれまでの学習方法に加えて、ロイロノートなど新たな学習方法を模索していく。 	A	コロナ禍で学習における相互交流が難しい中、タブレットや付箋の活用など、意見交換の機会を工夫していることがわかった。アプリを使うことで率直に自分の考えを発信できるよさもあると思うが、アプリの機能に依存するだけでなく、効果的な活用を期待したい。様々な形で言語活動を工夫して、対話的な学びを育ててほしい。
9	学校は学習指導要領や県編成要領、新座市指導の手引きに基づき、児童生徒の発達の段階や学力、能力に即した学習指導を行っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・Qubena(学習ソフト)を昼の復習タイムに活用したり、隙間の時間に活用し、自分のペースで学習ができるように図った。 ・専科や教科加配制度を活用したことで、教材研究の時間を多くとることができ、課題とまとめの一体化が図れた。また、教材準備時間も大幅に減らすことができた。さらに一人一人見取りの面でも効果が見られ、きめの細やかな指導につながった。 	A	学習ソフトを活用することにより、一人一人の進捗に合わせた学習を行っていることがうかがえる。個々の活用状況が見えにくい。ソフトを用いた学習がドリル的な学習にならないよう配慮してほしい。使用時間や内容、学習内容の理解度など、学習状況に関するデータがあると分かりやすいと思う。教科加配を始め、学習指導の工夫が感じられる。今後の取り組みに期待したい。
10	学校は、英語(外国語・外国語活動)の授業の充実するなど、グローバル化に対応できる児童生徒の育成(国際理解教育の推進)に努めている。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに東校舎の階段1段1段に簡単な英会話のフレーズを貼ったり、放送で英語の曲を流したりして、英語に触れる環境整備に努めた。 ・打合せの時間は限られているが、小学校外国語講師との連携を大切に、年間指導計画にそって計画的に指導している。 	A	コミュニケーションを伴う学習が難しくなっているが、子どもは学習でとりあげられた曲などをふとしたときに思い出すようだ。階段の掲示など視覚化の工夫もみられる。オリンピック、パラリンピックで関係者との交流の機会がなくなったのは残念だが、授業の中で外国語に触れる機会を工夫してほしい。

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
11	学校は、児童生徒が友達や教職員・来校者に進んであいさつをしたり、「です、ます」をつけるなど、場に応じた言葉遣いができるよう指導している。	B	・学級活動や道徳の時間を使い、言葉のもつ重みについて実践的な授業を行っている。また、言葉遣いに関する掲示物を作成・利用し、日頃から指導している。 ・普段から教員が進んで児童の手本となり、挨拶や丁寧な言葉遣いに努め、児童にも同じように指導している。	B	「あいさつは人より先に自分から」の指導の成果があらわれており、概ねできている。一方で、児童に対する言葉、態度で、これはどうか、と疑問に思う一面にふれることがあった。挨拶の指導を通して、笑顔があふれ、明るく活気がある学校づくりに努めていただきたい。言葉のもつ重みについての実践的な授業とはどのような授業か、HPなどで発信してほしい。
12	学校は、児童生徒がいじめや意地悪な行為をすることなく、お互いの良さや努力を認め合って学校生活を送れるような環境を整備している。	B	・自己有用感を高めるために、笑顔あふれる学級づくりを目指し「ほめること」を意識して日頃より指導に当たっている。失敗しても厳しく叱ることはせず、違うことで「挽回する」ことを児童と約束している。 ・いじめなどの問題行動が生じる前には生徒指導部を中心に話し合った問題を確認し合っ、予防的な声かけをしている。また、実際に起こった場合は、管理職・生徒指導部を中心に早期解決に向かって機動的に動くよう努めている。	B	自己有用感を高める実践が工夫され、いろいろな場面で子どもたちの活躍を認め、励ましていることがうかがえるが、失敗をおそれるような振る舞いを見かけることもある。「挽回する」「あきらめない」などの観点で、失敗も含めて向上をめざすことを大事にしてほしい。
13	学校は教職員自らが手本となり、児童生徒に対して規律意識を高める指導を行っている。	A	・生徒指導部が中心となり、児童の規範意識を高めるために情報共有、共通理解・行動を深めている。教員同士の会話も丁寧語で話し、児童の模範であるという意識をもって校務にあたっている。 ・予定黒板に会議の時間を記入し、まずは職員自身が時間を守るように努めている。	A	コロナ禍で学校での子どもたちの様子に触れる機会が少なくなったが、校内での挨拶はよくできているようだ。規範意識を高めようと学校全体で取り組んでいる様子が感じられ、評価できる。範を示す取り組みを共有し、よりよい学校をめざしてほしい。

評価項目「健康・体力の向上」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
14	学校は、児童生徒が体力向上に向け、体育や部活動・休み時間などにおいて意欲的に取り組めるよう指導に当たっている。	B	・コロナ感染防止のため、昨年度に引き続きクラスを半分にして休み時間に校庭を利用した。また学年ごとに分けて体育集会を実施した。さらに今年は体育部が中心となって、限られたスペースを利用して鉄棒教室や陸上教室を実施し、児童が身体を動かす機会を増やした。今後は業間休みの時間を利用した体力作りも検討していく。	A	朝マラソンの中止など、コロナ禍での体力の低下が心配だが、用具を使って投力の向上をめざす学習など、児童の体力向上に向けて工夫した実践に取り組んでいることがうかがえる。積極的に体を動かそうとしている子どもたちの様子も見られる。オンラインでは難しいところだと思いが、様々な機会を捉えて体力づくりを促してほしい。
15	学校は、食に関する意識を高める食育に取り組むなど、計画的に健康教育を推進している。	B	・給食だよりや昼の放送で新座市の食品を紹介しながら地産地消の意義について児童に伝え、食への関心を高めた。 ・全国学校給食週間を受け、1月中旬に各学年で工夫をこらし、標語やカルタなどに取り組んでいる。 ・家庭と連携し、提供された給食の完食や食事のマナーについても意識を高めていく。	A	黙食など食事を通じた交流が制限されているなかで、放送を通じた食品の紹介など関心を高めていることを評価したい。放送で聞いたことを家庭で話すなど、意識化が図られていると感じる。フードロスの対応など、食材の活用にも視野を広げてほしい。

評価項目「保護者・地域との連携協力」

No.	質問項目	自己評価	自己評価についての説明	学校関係者評価	学校関係者評価についての説明
16	学校は、保護者や地域住民の意見を取り入れる機会を積極的に設け、学校に寄せられた具体的な要望や意見を把握し、適切に対応している。	B	・コロナ禍が続き、地域と積極的に連携した活動を控えざるを得ない中、PTAや民生児童委員、地域の方の声をできる限り取り入れ、活動を行ってきた。知恵を絞って今できることを考え、感染症対策をしながら新たなやり方は、これまでの「当たり前」を見直し、新しい『大和田スタイル』を考えてく良い機会となった。 ・コロナ対応について手紙やメールで寄せられた意見に対しては、真摯に受け止め、学校としての対応を協議した。	A	外部との接触が制限されるなか、PTAや学校応援団の活動の機会に配慮していただいた。PTAに意見を求められる機会もあり、出した意見が反映されるなど、連携を大事にしていると実感する。懇談会が制限される状態で、学校にどのように考えを伝えてよいかわからないという保護者の声もある。意見ボックス、メールなどの連絡の方法の周知により交流の機会を広げることができるとありがたい。
17	学校は、学校だよりやホームページなどで、教育活動の様子や成果・課題などについて定期的に情報提供している。	B	・引き続きコロナ禍であったので積極的な学校公開は難しかったが、運動会のブロック別開催やオンラインでの分散登校時に授業の様子や運動会の中継など工夫して行った。 ・コンピューター業務補佐員を活用し、児童学習の様子(主に写真)を中心に、定期的にHPIに掲載し情報を公開した。 ・コロナ関係の情報をスクールメールやHPにアップして、地域、保護者と情報の共有を図った。	A	HPが適宜更新され、学校の様子がよくわかる。HPがあることは知っていても、アクセスしたことがないという声を聞くこともある。どのくらいの保護者が見ているのか、アクセス状況を把握し、HPの内容や更新状況について周知してほしい。継続的な情報発信を期待する。
18	学校は、学校応援団組織を活性化させるとともに、保護者や地域と連携して声かけ運動、美化活動、不審者対策など、計画的に実施している。	B	・コロナ禍で活動が難しかったが、保護者に裁縫の手伝いやPTAボランティア部に学校敷地内の手入れ・整備を依頼するなど、工夫してできることを行い連携を図った。 ・学校応援団に協力をお願いするときは、できる限り早く連絡するように心がけた。次年度はより地域の方と連携した、コロナ禍でもできる活動を考えていく。	A	除草や夏休みの植物の水やりなど、その都度、学校と調整し、PTA、学校応援団の活動を進めてきた。学校応援団の活動を知らない人もいるので、多くの人に知ってもらえる機会をつくりたい。、多くの人に知ってもらいたい